

60th
Anniversary

Company Brochure



学事出版



こどものしあわせをともにつむぐ

こどものしあわせを



A photograph of four children, two girls and two boys, standing outdoors and smiling. They are all wearing schoolbags. The girl on the far left is in the foreground, wearing a grey and white striped shirt and a brown leather schoolbag. Behind her is a boy in a light blue shirt and a brown leather schoolbag. To the right of the boy is another girl in a white shirt and a purple schoolbag. The background is a blurred outdoor setting.

ともにつむぐ

学事出版は雑誌『学校事務』の
創刊からはじまりました。
以来、子どもたちが健やかにすごせる学校づくりを
書籍・雑誌を通じてお手伝いしてきました。
豊かな教育の場をつくること、
教育にかかわるすべての人が日々充実した
仕事ができることが、
子どもたちの幸せに通じると考えます。
すべての人の未来に希望があるよう、
読者とともによりよい教育を創っていきます。

Corporate Identity

学事出版が目指すもの

“こどものしあわせをともにつむぐ”



ロゴに込めた想い



教育現場である学校を表すシンボルマークとして「アーチ」をデザインに取り入れ、「希望ある未来への入口」、「豊かな未来へのはじまり」という想いを込めました。「アーチ」いっばいに描かれる、躍動感のあるイキイキした「g」と「j」の文字は、社名「学事」GAKUJIの頭文字から取り、「常に行動し進化していく組織であり続けよう」という私たちの決意を表しています。頭文字に対して少し狭くデザインされた門（アーチ）は、アンドレ・ジイドの小説『狭き門』へのオマージュです。

狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。
しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。
——マタイによる福音書より



1968~
月刊 高校教育



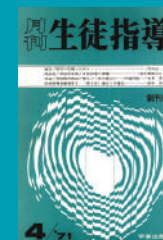
1950~
学校事務

Magazines

〔雑誌〕

◎事業案内

雑誌事業は当社の成長を支えてきた礎です。社会的に一定の役割を終え、休刊になったものも含めるとこれまでで10を超える定期刊行物を発行してきました。2024年現在、『学校事務』、『月刊高校教育』、『月刊生徒指導』の3誌と文部科学省から編集委託を受けている『中等教育資料』、年3回刊行の『授業づくりネットワーク』の計5誌を刊行し、教育関係者の皆さまに時宜を得た情報提供を続けています。



1971~
月刊 生徒指導



1988~
JN 授業づくり
ネットワーク



2012~
中等教育資料



1950(昭和25)年創刊

学校事務

事務職員とともに歩んできた当社の原点

学校事務職員のための唯一の専門誌として、創刊以来、日々の実務に役立つ情報から、研究会や職員団体の動向、教育行財政に関わるニュース、学校事務や学校事務職員のあり方をめぐる議論まで、「学校事務」に関わる様々な情報を提供してきました。

社会情勢が大きく変化する中、事務職員に期待される役割は多様化し、ますます重要性を増しています。これからも、事務職員の皆さんが日々の業務の課題を共有し、対応・解決していくための指針となるような情報を“広く”、“深く”、“分かりやすく”お届けしていきます。

◎月刊／毎月13日発売



1968(昭和43)年創刊

高校教育

魅力ある、特色ある高校づくりのために

本誌は高校教育の唯一の専門誌として、文部科学省(当時は文部省)および全国高等学校長協会の編集協力により50年以上前に創刊されました。創刊以来、高校の管理職の先生方、行政関係者を対象に、高校改革の最新情報から学校経営の基本、日々の業務に役立つポイント、全国の高校の実践等々、幅広く取り扱ってきました。

高校を取り巻く状況も混沌とする中ですが、「各高校に1冊!」を合い言葉に、これからも先生方をはじめ高校関係者に役立つ情報を提供していきます。

◎月刊／毎月13日発売



1971(昭和46)年創刊

月刊 生徒指導

生徒指導の“今”をとらえ、“一歩先”を照らす

生徒指導の専門誌として、基礎的な生徒対応のメソッドから、先進的な実践事例まで、中学校・高等学校における日々の生徒指導に役立つ情報を発信してきました。

創刊から現在までの50年以上の間、生徒指導上の諸課題や、学校を取りまく環境が変わろうとも、「子どもたちのために」という現場の先生方の熱意は変わることなくあり続けています。『月刊生徒指導』も、その思いをよりよく生徒に届ける助けとなるよう、今後も生徒指導の“今”をとらえ、“一歩先”を照らし続けていきます。

◎月刊／毎月13日発売



1952(昭和27)年創刊／2012(平成24)年から当社で発行

中等教育資料

中・高の授業研究と教育課程編成・実施の公式ガイド

本誌は、中学校・高等学校等の授業研究と教育課程の編成・実施に役立つ専門誌です。文部科学省編集でまさに教育課程・授業研究の「公式ガイド」とも言える月刊誌で、創刊からすでに70年を超える歴史ある1冊でもあります。

学習指導要領のねらいや実践のヒントについて、文部科学省教育課程課と全国から集まる教科のスペシャリストである視学官・教科調査官が執筆します。学習指導要領が大きく変わりつつある中、そのねらいと実践がよくわかります。

◎月刊／毎月28日発売



1988(昭和63)年創刊

JN 授業づくり
ネットワーク

「異質な者どうしの学び合い」による連帯

「異質な者どうしの学び合い」をコンセプトに、学校教育と社会とをつなぎ、次代を担う子どもたちのために新たな授業をつくる場として、授業づくりに関心をもつ教師や研究者はもちろん、教育を応援する民間企業やNPO、行政関係の方、一般市民や学生の方にも愛読していただける季刊誌を目指しています。季刊発行の特徴を活かし、授業づくりに関して多くの方が関心をもつテーマを、毎号一つ取り上げ、学校の教師、研究者、関連する領域のプロといった人たちの取り組みが、1冊で一望できるような誌面づくりを心がけています。

◎年3回(3月、7月、12月)刊



Books/ School Planning Note

〔書籍・スクールプランニングノート〕

◎事業案内

創業以来、主に学校教職員の皆さま、学校関係者に向けた教育専門書を発行しています。柱である雑誌事業の連載等が元となった関連書籍を中心に、幅広く手がけてきました。2013年からは教職員向け手帳の先駆け『スクールプランニングノート』を刊行し、毎年好評をいただいています。これからも、教職員の皆さんの日々の教育活動により役立つもの、教育の未来を提案できる書籍等を展開していきます。



書籍

教職員の皆さんの日々の教育活動に役立つもの、あるいは教育関係者に広く教育問題を問う、教育の未来を提案できる書籍を世に出すことを通して、「子どもたちが幸せに生きられる社会をつくる」という想いで、出版活動を行っています。



【学校経営】

校長・副校長・教頭先生等、管理職の先生方に向け、基本的な考え方から日々の業務にまで役立つ書籍を刊行しています。最新の経営手法、教育情報なども提供しています。



【学級経営】

主に学級担任の先生に向けて、学級経営に関する書籍を制作しています。担任としての心得から学級経営の基本的な考え方、学級あそびや通知表所見文例集まで幅広く刊行しています。



【授業づくり】

先生方の日々の業務の要は授業。校種・教科毎に授業づくりに役立つ基本書はもちろん、授業ネタ・コツ集、コピーして使えるプリント集、生徒向けワークブック等、様々な書籍を刊行しています。



【生徒指導】

先生方が常に頭を悩ませるのが生徒指導問題。特に対応が難しくなる中学校・高校向けを中心に生徒指導本を制作。ソーシャルスキルトレーニングなどのサポートブックも刊行しています。



【特別支援・インクルーシブ教育】

特別支援教育・インクルーシブ教育の理念や理論をわかりやすく示したものから、様々な学校での先進的取り組みや実践を紹介した実践書など、「共生社会」に向けた書籍を刊行しています。



【学校事務】

当社の原点である月刊誌『学校事務』から生まれた研修テキストのシリーズや事務職員の職務の基本書、各地の事務職員の実践紹介など、「学校事務」に関わる様々な書籍を刊行しています。



スクール プランニングノート

2013年から、子どもたちと日々向き合う学校の先生のための手帳の刊行を開始しました。教職員向け手帳の先駆けとして、2023年現在、シリーズ累計発行部数56万部を超える人気シリーズとなっています。



現場の声から生まれた手帳

はじめは2010年の『月刊ホームルーム』の「教師の手帳・ノート」特集。読者アンケートや座談会を開き、先生独自のタイムマネジメントや手帳の使い方を調査した結果、「先生のスケジュール管理」に特化した「先生向け手帳」の開発を開始しました。現在でも毎年読者アンケートを実施し商品作りに生かしています。

「先生のスケジュール管理」追求

学校での1週間の予定をすっきり管理できるよう学校に合わせた時間割やタイプごとにメモ欄を拡張。毎日の子どもの様子や保護者とのやりとりをメモできるような工夫がされています。週間だけでなく月間計画表は行事に向けた見通しが立てられます。「ペタペタボード」には、1年間を通して参照するプリント類を貼り、いつでもすぐ見返すことができます。さらに「別冊ノート」には朝礼、職員会議、研修、授業案などアイデア次第で様々な使い方ができる記録専用ノートも開発しました。



Aタイプ(小学校教師向け)



週計画と子どもの記録が手軽にできる(B5)。

Bタイプ(中学・高校教師向け)



授業の計画・変更を手元でスマートに管理(B5)。

Uタイプ
(ユニバーサル)



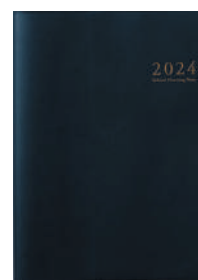
自由度の高いデザインでどんな時間割にも対応(A4)。

Pタイプ
(校長向け)



校長に必要な「経営力」や「決断力」をバックアップ(A5)。

Mタイプ
(教頭・副校長・教務主任向け)



学校管理職の広範囲にわたる業務を効率化(B5)。

Jタイプ
(学校事務職員向け)



学校事務職員の仕事をよりスムーズに。(A5)

別冊ノート



別冊・児童生徒個別記録ノート／別冊・記録ノートA5／別冊・記録ノートB5／別冊・授業計画ノート／別冊・名簿ノート

学事出版教育文化賞

学事出版教育文化賞は、当社の創立40周年を記念して2003年度に創設されました。全国の様々な教育実践を幅広く募り、優れた実践を顕彰することを通して、教育関係者の皆さまの新たな取り組みを奨励し、ひいては学校教育向上の一助となることを目指すCSR活動の一環として、毎年実施し、2022年度で第20回を迎えました。

例年多くの応募があり、外部有識者も含めた選考委員会にて「教育文化賞」(第7回までは「最優秀賞」)、「優秀賞」、「奨励賞」等を選出。受賞論文は当社雑誌に掲載するほか、特に優れたものは書籍化等も行い、教育関係者に広く紹介しています。

「教育文化賞」歴代受賞論文

年度	回	論文名	受賞者名	所属
2003	第1回	“生きる力”を培う園芸ボランティア活動	豊田 正博	東京都立農産高等学校
2004	第2回	社会科授業“秋田のハタハタ漁” ——役割体験学習論から漁師の気概を授業化する	井門正美 藤倉欣治	秋田大学教育文化学部 秋田大学附属小学校
2005	第3回	二極化の中の表現指導——誰にも白旗を掲げさせない作文指導	喜多見眞弓	中央区立日本橋中学校
2006	第4回	姉崎高の十六年度(ホップ)・十七年度(ステップ)・十八年度(ジャンプ)	白鳥秀幸	千葉県立姉崎高等学校
2007	第5回	積極的・開発的生徒指導としての社会スキルを学ぶ授業の構築	中村豊	鷺宮町立東中学校
2008	第6回	3つの「しよく」から見つめる自分達の食生活 ——グリーンエデュケーション愛宕と関連させた家庭科、道徳、給食等の実践	馬場真弓	福岡市立愛宕小学校
2009	第7回	不登校児童生徒への教室復帰を目指した支援の工夫 ——養護教諭の健康相談活動の中で、気力や不安感を数値化して	市川美奈子	さいたま市立桜木中学校
2010	第8回	一表現者として——造形(美術)における障害児・健常児の合同授業	堀田英子	横浜国立大学大学院 教育学研究科
2011	第9回	ロールプレイングマネージメントの理解と実践	八島禎宏	作新学院小学部
2012	第10回	望ましい集団づくりと生徒の自立を目指した部活動指導 ——教育理念に基づいた指導とルーティンチェック表の活用	川口厚	四条畷市教育委員会
2013	第11回	授業作文で子どもたちの思考過程が見えた！	岡田淳史	日高市立高萩小学校
2014	第12回	私の考えを構築する——井萩中学校・全校読後交流会	赤萩千恵子	杉並区立井萩中学校
2015	第13回	「21世紀型能力」育成を目指した地域プロジェクト学習と教育成果の検証 ——普通科進学校における「学びへの志」を育む実践	松高政 絹田昌代	京都産業大学 岡山県立倉敷南高等学校
2016	第14回	「総合的な探究の時間」の学習効果を高めるための実践 ——身につける能力の明確化にもとづくアクティブ・ラーニングの工夫例	浜田伴子	前茨城県立竹園高等学校
2017	第15回	大学・地域と連携したチーム大正中央による空き教室リノベーション	岸上智弘	大阪市立大正中央中学校
2018	第16回	自他肯定感を育む教育の実践 ——生徒の無限の可能性を引き出すために	藤田克昌	愛媛県立今治南高等学校
2019	第17回	あ、見えるよ。『集中板書』のゴール ——板書の効果を最大限に引き出すための応援団づくりなどを通して	三島朋子	熊本市立向山小学校
2020	第18回	発表会を通した自己理解と共感——真の「生きる力」を育むために	森脇啓仁	大阪府立枚方支援学校
2021	第19回	SECIモデルを活用した学級文化の共創	佐橋慶彦	名古屋市立守山小学校
2022	第20回	児童が学びをデザインする理科授業の創造 ——問いを生み、対話を広げ、内化を促す「描く活動」	光成直美	福山市立引野小学校

※第7回までは「最優秀賞」 *所属は受賞当時のもの



第1回表彰式の報道。
「日本教育新聞」2004年2月20日付11面

第20回表彰式の報道。
「日本教育新聞」2023年2月6日付2面

「書籍化につながった例」

第20回
優秀賞



有澤重誠、増田真由美、水口真弓 編著
『京都市発!子どもの学びを広げる事務職員の挑戦
——学校事務改革からはじまるカリキュラム・マネジメント』

第19回
優秀賞



甲斐修 著
『与論高校はなぜ定期考査と朝課外をやめたのか
——改革を実現した学校マネジメント』

第4回
最優秀賞



白鳥秀幸 著
『あねさきの風<上>——千葉県立姉崎高等学校再建への挑戦
『あねさきの風<下>——「潰せ」と言われた最底辺校改革の真実』

History

◎社史

〔草創期の学事出版〕 1950~1969

学事出版の歴史は学校事務職員と共に始まりました。前身である「学校事務研究会」は1950年1月に創立され、翌年には人事事務研究会と共編での『学校事務』発行に至ります。1963年に学事出版株式会社としてスタートを切った後、学校事務や社会教育関係の出版を中心にしながらも、教育関係者に広く教育問題を問い、教育の未来を提案できる出版へと活動の幅を広げてきました。

1月(1968年)

『月刊高校教育』(全国高等学校長協会・高校教育研究会共編)創刊。



6月(1969年)

PTA文庫刊行始まる

4月(1967年)～

『スクールビジネスマネージメント』『新しい学校事務管理のすずめ』刊行。学校事務の理論化をめざす

4月(1966年)

『月刊PTA問題』創刊

11月(1965年)

『のぞましいPTA像を求めて』刊行。以後、PTA関連書籍を積極的に出版

4月(1963年)

『PTA読本—PTA会員の手引き』を刊行



1月(1963年)

学事出版株式会社設立。初代表取締役任に寺田鏡が就任



4月(1962年)

『学校事務』5月号で始めてPTA問題の特集。学事出版が社会教育関係の出版を手がける発端に

8月(1961年)

学校事務研究会を財団法人日本教育公務員弘済会内に移転し、業務を移管

10月(1951年)

学事研と人事研、学校事務運動一本化に合意、共編で『学校事務』発行へ



10月(1950年)

『学校事務』(文部省、人事事務研究会編、山海堂発行)創刊



1月(1950年)

「学校事務研究会」(学事出版の前身)設立

3月(1950年)

『教育と事務』(学校事務研究会発行)創刊

1950年
(昭和25年)

- 短期大学発足
- 第2次アメリカ教育使節団来日
- 地方公務員法公布

1951年
(昭和26年)

- 学習指導要領(一般編)(試案)発行

1952年
(昭和27年)

- 義務教育費国庫負担法成立
- 中央教育審議会設置

1961年
(昭和36年)

- 文部省・高校生急増対策全体計画発表
- 文部省・中学校2・3年生に全国斉学力テスト実施指導
- 公立高等学校の設置・適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律公布。普通科は50人学級に

1962年
(昭和37年)

- 義務教育諸学校の教科用図書の無償に関する法律公布

1963年
(昭和38年)

- 教師用「道徳教育の手引」作成・配布
- 教育課程審議会「幼稚園教育課程の改善について(答申)」
- 義務教育において教科書は広域採択制に



義務教育諸学校で使用されている教科用図書(イメージ)

1965年
(昭和40年)

- 文部省「生徒指導の手引」作成・配布

1966年
(昭和41年)

- ユネスコ特別政府間会議「教師の地位に関する勧告」
- 中教審「後期中等教育の拡充整備について(答申)」で、「期待される人間像」が明記される。

1968年
(昭和43年)

- 東大医学部生安田講堂占拠
- 教育課程審議会「中学校の教育課程の改善について(答申)」
- 小学校学習指導要領(全面改訂)告示、各教科・道徳・特別活動の3領域になる
- 文部省、教科用図書検定基準を告示

1969年
(昭和44年)

- 中学校学習指導要領(全面改訂)告示、各教科・道徳・特別活動の3領域になる
- 教育課程審議会「高等学校の教育課程の改善について(答申)」
- 文部省、高校における政治的教養と政治的活動について通達
- 東大安田講堂事件



東大安田講堂前。機動隊が導入され、薄暗の中で続く攻防。(提供:朝日新聞社)

上部は学事出版の動き／下部は教育界の動き

History

◎社史

[70,80年代の教育問題と学事出版の発展]

1970~1988

4月(1970年)

『校長の実務』(伊藤和衛編)『教頭の実務』(同)等学校経営関連書籍の刊行を本格的に開始



4月(1972年)

事務所を千代田区外神田(湯島聖堂のとなり)に移転



2月(1973年)

安部欣一が代表取締役社長に就任

4月(1971年)

『月刊生徒指導』創刊



7月(1973年)

『屈折の十代』(江幡玲子他著)刊行、ベストセラーに



11月(1975年)

『海外教育研究』創刊、2年間で4集まで刊行



4月(1976年)

『月刊ホームルーム』創刊



7月(1977年)

マンガ教材『バイバイスモーキング』刊行、多くの中学・高校で採用される超ロングセラーに



12月(1978年)

『学校掃除』(沖原豊編著)刊行、ユニークな研究書として高い評価を受ける。

1970年
(昭和45年)

●中央教育審議会「高等教育の改革に関する基本構想」を発表

1971年
(昭和46年)

●中央教育審議会「46答申」第三の教育改革といわれ、学制改革や小・中・高校教育課程能力適性に応じた多様なコース化などを提唱

1972年
(昭和47年)1973年
(昭和48年)

●新教育課程審議会発足

1974年
(昭和49年)

●教頭職の法制化(学校教育法二部改正)

1975年
(昭和50年)

●教育課程審議会「教育課程作成の中間報告」、小・中・高校「貫」的教育課程を提言

1976年
(昭和51年)

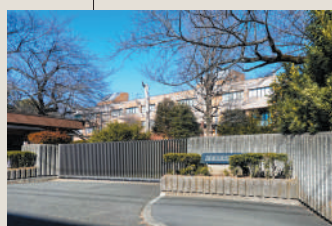
●専修学校制度発足
●文部省業者テストの自粛通達

1977年
(昭和52年)

●大学入試センター発足
●小・中学校学習指導要領(全面改訂)告示「ゆとりの時間」創設、教育内容の精選・削減

1978年
(昭和53年)

●高等学校学習指導要領(全面改訂)告示「現代社会」などの新設など



現在の大学入試センター外観

1979年
(昭和54年)

●文部省第5次教職員定数改善計画案発表、小・中学校40人学級に

1980年
(昭和55年)

●義務教育標準法改正、小・中学校では1991年度までに40人学級を実現
●文部省、校内暴力対策のため「児童生徒の非行防止について」通達

1981年
(昭和56年)

●文部省「校内暴力の事例集」作成配布

1982年
(昭和57年)

●全日本中学校長会「校内暴力等についての指導事例」
●日本学校健康会法公布

1983年
(昭和58年)

●公立高校入試の弾力化(学校教育法施行規則改正)

1984年
(昭和59年)

●文部省「荒れる教室」対策に教員重点配置を決定

1985年
(昭和60年)

●高校進学率、全国平均70%を超える

1986年
(昭和61年)1987年
(昭和62年)

●「臨時教育審議会第4次(最終)答申」秋期入学への移行(文部省に生涯学習担当局新設)
●初任者研修制度の創設

1988年
(昭和63年)

●単位制高等学校制度の創設(単位制高等学校教育規定施行)
●初任者研修の制度化(教育公務員特例法一部改正)

11月(1979年)

『手あそびうた50』(二階堂邦子編)刊行、通算10万部以上の超ロングセラーに



10月(1980年)

『女子非行』『暴力非行』『性非行』等(子どもの問題シリーズ)の刊行が始まる



1月(1981年)

『現代社会』創刊

4月(1982年)

『学校講話の事例集』(中里富美雄著)刊行、学校講話関連書籍の出版第1号



3月(1986年)

『たばこがからだを蝕む』『となりのたばこ』を制作、ビデオも手がけ始める

7月(1987年)

『月刊学校教育相談』創刊



3月(1988年)

『掃除サボりの教育学』(家本芳郎著)刊行、ベストセラーに



12月(1988年)

『授業づくりネットワーク』の発行を日本書籍より引き継ぐ



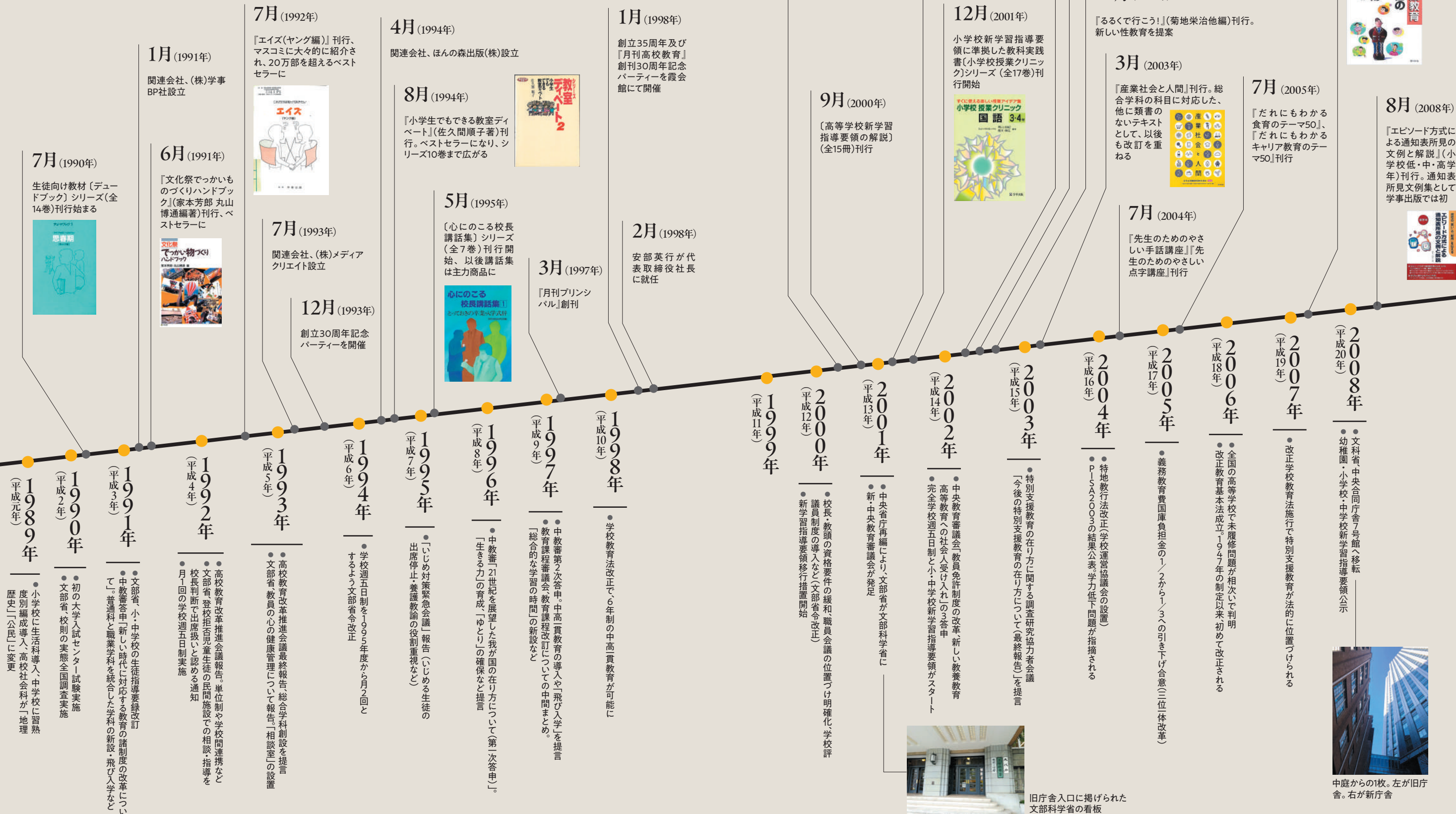
1980年代は校内暴力事件が各地で多発。写真は東京都町田市の荒れる中学校のガラス戸。(提供:朝日新聞社)

上部は学事出版の動き／下部は教育界の動き

History

◎社史

[平成の教育改革に向き合う] 1989~2008



旧庁舎入口に掲げられた
文部科学省の看板



中庭からの1枚。左が旧庁舎。右が新庁舎

上部は学事出版の動き／下部は教育界の動き

学事出版の未来

「新しい時代の教育に向けて」
新生・学事出版の誕生

2023-



- 令和6年能登半島地震発生。文部科学省は、児童生徒の就学機会の確保や大学受験に関して柔軟な対応を要請。
- 文部科学省、生成AIの学校での取り扱いに関するガイドライン公表
- 国際的な学習到達度調査「PISA2022」にて、3分野すべてで世界トップレベルに。読解力で過去最高水準。
- 第2期CIGAスクール構想に向けて1人1台端末の更新予算が成立。

ウェブメディア「Web Gakuji」スタート

創立61周年を迎えた2024年1月、新たな試みとして教育情報メディア「Web Gakuji」をスタートしました。Web Gakujiは、学事出版が刊行する月刊誌『学校事務』『月刊高校教育』『月刊生徒指導』に関わるテーマを中心に、教育関連の情報を学校教職員の皆さまに向けて幅広くお届けするウェブメディアです。

「予測不可能な時代」と言われる中、教育を支える学校教職員の皆さまをサポート・応援し、“こどものしあわせをともにつむぐ”ためのコンテンツをお届けしていきます。

Web Gakuji



コーポレート・アイデンティティ刷新

社会の急激な変化が進み、“VUCA”と呼ばれる未来が予測困難な時代にあって、学校教育を取り巻く状況も複雑化し、様々な課題が浮き彫りになっている現在。こうした状況にあって、今後も教育に関わる人を支え、豊かな教育の場をつくるために、当社として何ができるのか、何をなすべきなのかを改めて考え、創立60周年を機にコーポレート・アイデンティティ(CI)を刷新しました。

■新しいロゴ



■新しいキャッチフレーズ

「こどものしあわせをともにつむぐ」。

私たちの活動がめざすのは「子どもの幸せ」であること、そして学校教育を支えている皆さまと「共に」、その実現に向けて力を尽くしていきたい。そのような想いと決意を込めています。

■公式ウェブサイトを全面リニューアル

CI刷新に合わせて公式ウェブサイトも全面リニューアルしました。



サイトデザインの刷新①



検索機能の向上②



書誌情報ページの充実③

学事出版は、すべての人に
希望ある未来が訪れるよう、
今後もよりよい学校教育づくりの
お手伝いに力を尽くしていきます。

メッセージ



代表取締役社長 鈴木宣昭

JR御茶ノ水駅わきの聖橋を渡ると、右手に見えるのが湯島聖堂。孔子を祀っており、「日本の学校教育発祥の地」と呼ばれています。創立時、本社を構えたのは、この聖堂の向かいに建つビルの一室。以来60年、学問・教育の祖である聖堂を目の前にして、教育出版社としての礎を築いてきました。

2022年に、この地から神保町に移転しました。緑豊かな閑静な地から、古書店が連なり活気ある街並みへ。

2023年に創立60周年を迎え、弊社のコーポレート・アイデンティティーやウェブサイトを一新。“こどものしあわせをともにつむぐ”を合言葉に、新生・学事出版の新たな一歩がスタートしました。

いじめ、不登校は、相変わらず増え続けています。子どもの自殺報道も後を絶ちません。新たに定めたこの合言葉のもと、教育出版社として常に、子どもたちをめぐる課題に向き合っていきたいと思います。

代表取締役会長 安部英行

学事出版は学校事務職員のための雑誌を継続すべく創立されました。その後、数誌の創刊、休刊を経て、現在『学校事務』『月刊高校教育』『月刊生徒指導』と文部科学省編集の『中等教育資料』の4誌を発行しています。

私は、非常勤監査役を経て、1994年に営業部長として入社しました。当時、雑誌の売上が半分以上を占め、安定した売上・利益を確保していた一方、雑誌の部数の伸びに陰りが出始めていました。これに対して、書籍売上増に注力し、教育書の分野を広げてきました。2013年、先生方の仕事の能率向上のために、教育現場の声を受けて試行錯誤の上に生み出した教師向け手帳は、年々売上を伸ばし、今では当社の大きな柱となっています。

書店から教育書コーナーが減っていく中で、現在、新たな先生方のコミュニティーづくりを若い社員を中心に進めています。私は後方支援に徹し、新たなメンバーも加わった次世代に期待を膨らませています。

会社概要

会社名	学事出版株式会社
代表者	代表取締役会長 安部英行 代表取締役社長 鈴木宣昭
資本金	1,380万円
創 業	1950(昭和25)年
創 立	1963(昭和38)年
事業内容	教育関連図書・教材の出版
所在地	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F
従業員数	20名(2023年3月末現在)
関連会社	ほんの森出版(株)

出版物

<定期刊行物>

[月刊]

学校事務

月刊高校教育

月刊生徒指導

中等教育資料

[年3回刊]

授業づくりネットワーク

<書籍・教材>

約600点

2024年1月発行

制作／学事出版株式会社 広報・メディア戦略室

デザイン／株式会社弾デザイン事務所

印刷／研友社印刷株式会社

